

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第5部門第2区分

【発行日】令和6年4月16日(2024.4.16)

【公開番号】特開2023-22882(P2023-22882A)

【公開日】令和5年2月16日(2023.2.16)

【年通号数】公開公報(特許)2023-031

【出願番号】特願2021-127937(P2021-127937)

【国際特許分類】

F 16 D 43/26(2006.01)

10

F 16 D 43/02(2006.01)

【F I】

F 16 D 43/26 Z

F 16 D 43/02

【手続補正書】

【提出日】令和6年4月1日(2024.4.1)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0025

20

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0025】

実施の形態の1例について、図1～図10を用いて説明する。なお、軸方向、径方向および周方向とは、特に断らない限り、逆入力遮断クラッチ1の軸方向、径方向および周方向をいう。本例において、逆入力遮断クラッチ1の軸方向、径方向および周方向は、入力部材2の軸方向、径方向および周方向と一致し、かつ、出力部材3の軸方向、径方向および周方向と一致する。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

30

【補正対象項目名】0045

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0045】

入力部材2に回転トルクが入力されると、図5に示すように、入力側被係合部14の内側で、入力側係合部7が入力部材2の回転方向(図5の例では時計方向)に回転する。すると、入力側係合部7の径方向内側面7aが入力側被係合部14の平坦面14aを径方向内方にに向けて押圧し、1対の係合子5を、被押圧面10から離れる方向にそれぞれ移動させる。つまり、1対の係合子5を、入力部材2との係合に基づき、互いに近づく方向である径方向内側に向けて(図5の上側に位置する係合子5を下側に向けて、図5の下側に位置する係合子5を上側に向けて)それぞれ移動させる。これにより、1対の係合子5の径方向内側面が互いに近づく方向に移動し、1対の出力側被係合部12が出力部材3の出力側係合部9を径方向両側から挟持する。すなわち、出力部材3を、出力側係合部9の平坦面9aが係合子5の1対の平坦面部13と平行になるように回転させつつ、出力側係合部9と1対の出力側被係合部12とをがたつきなく係合させる。この結果、入力部材2に入力された回転トルクは、1対の係合子5を介して、出力部材3に伝達され、出力部材3から出力される。本例の逆入力遮断クラッチ1は、入力部材2に回転トルクが入力されると、入力部材2の回転方向に関係なく、1対の係合子5を、被押圧面10から離れる方向にそれぞれ移動させる。そして、入力部材2に入力された回転トルクが、1対の係合子5を介して、出力部材3に伝達される。

40

50

【手続補正3】

【補正対象書類名】図面

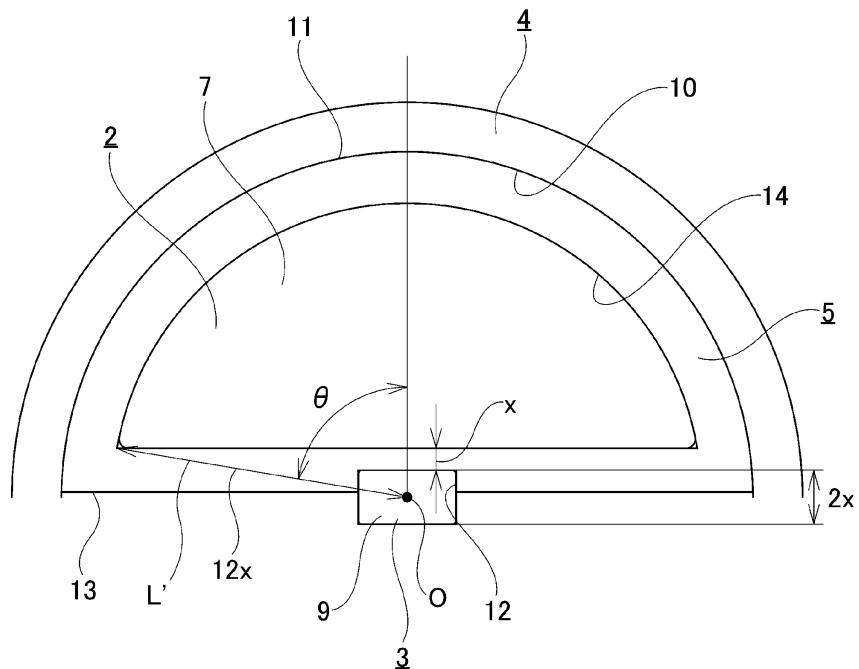
【補正対象項目名】図10

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図10】

(A)



(B)

